

## 令和3年度 児童・保護者・職員アンケート結果の考察及び保護者からのご意見

### 【あいさつ】

- ・3項目とも、全体の評価は上がっている。一部の保護者にあいさつができないという声はあるが、保護者全体では、子どもたちのあいさつがよくなっていると評価している。
- ・職員、児童会、コミ・スク、PTAで課題を共有し年間を通して取り組んだ成果が出た。
- ・職員評価で、7人/24人が『旗当番や見守り隊の方など地域の人に自分から明るい声であいさつをしている』の設問に「2」と評価している。保護者や児童の評価に乖離があり、次年度からも継続した指導が必要。

### 【学習】

- ・「相手の意見を聞く」については、児童と保護者・職員間で評価に乖離がある。内容の理解まで到達するには、問い返し等の手立てが必要。
- ・家で読書については、7月と同様に児童が評価しているほど保護者はできていると評価はしていないのは、家庭で読書をしている姿を見ていないのではないかと推察できる。それは、学校でサッと読めてしまう本を多く借りているかもしれない。時々家庭でじっくりと読む本を借りるような指導が必要。

### 【掃除】

- ・学校での掃除については、掃除の時間があるため、児童も比較的しっかりとできているが、家庭においては、自分でやらなくてもいい環境(家族の方がやってくれる)となっているため、保護者の評価は低いと考える。長期休みの期間だけでなく、普段から家族の一員としての自覚がもてる指導が必要。

### 【仲間】

- ・学校・家庭・子どもの意識のすべてで「いじめ」は許されないものとしてとらえている。
- ・「いじめ」は許されないことという認識はあるが、その場面を見たときにやめるように言うことは必ずしもできているとは言えない。「いじめは絶対にダメ!!」の啓発はできているため、今後は行動力の指導を行う必要がある。

### 【保護者の意見より(課題面のみ抜粋)】

- ・マスクをしているからあいさつをしなくてよいと考えている児童がいる。
  - ➡大きな声を出すことができない環境では、会釈をするなど、コロナ禍においてもできるあいさつの仕方を指導していきます。
- ・高学年の児童のあいさつが少ない。あいさつが返ってこない。
  - ➡今後も児童会を中心に子どもたちの主体的な取組を支援していく。
- ・困っている子に声をかけられる子が少ない。
- ・コロナ感染が収まってきたら、また色々なイベントを再開することで楽しみも増えて、児童たちの交流も深まると思う。
  - ➡コロナの感染状況を鑑みながら、様々な行事等を計画していきたい。
- ・プリント類の配布が多いので、タブレットに送信で済むものがあれば環境にもよい。
  - ➡岐阜市から貸与のタブレットPCは契約の都合上、保護者の方が子どもと一緒に見るのが前提となるため、タブレット送信できるものについては、紙媒体の配布を減らしていく。
- ・ランドセルが重い。
- ・給食時の放送をいつも同じではなく、いろいろな内容にしてほしい。
- ・子どもたちの間(1年生)で内緒話が流行っているようで、トラブルの原因になっているように感じる。
- ・登下校の際に集団から置いていかれる、一緒に帰ってくれない等、どこまで学年下校ができているか不安。泣いて帰ってくることもある。(1年生)
- ・タブレットや本を見ながら下校している児童を見かける。事故にあわぬよう注意が必要。
  - ➡タブレットPCの使い方や安全な登下校の仕方について、通学班会等で指導する。
- ・下校時、西門から飛び出してくる子がいる。一度、車とぶつかる寸前の場面を見た。
  - ➡安全な登下校の仕方について、担任や通学班会等で指導する。